

政治的中立性の確保、継続性や安定性の確保、地域住民の意向反映などのため制度

《加藤 保博》 全国発信のまちづくりについて

問 ①市長の言う全国発信のまちづくりの意味が、市民感覚とずれがあるように思う。何をして何を発信していくのか、今後の進め方を聞きたい。

答 ①ソフト事業のまちづくりをすべく、総合的なスタイルとしてまちづくりを標榜する課の新設を今後検討したい。全国発信のまちづくりは、1点に絞る必要がある。生き残りをかけた知恵比べと言いつつ、市民目線で、奇をてらうことなく、メディアを意

化されたもの。様々な分野から選任された委員の意見を合議により意思決定する

問 ②観光プロジェクトでの考え方の主流は、新しいものをつくるのではなく、総社の本来のよさに付加価値をつけて発信していくべきである。果物の分野でも市場で総社がブランド化されていらない現実を見て、総社の知名度アップ、全国発信への意気込みを持たなくてはならない。雪舟を特別名誉市民にするなど、どう顕彰しどう取り扱いか見直し、英知を結集して何をブランド化するのかを今後、地に足をつけた議論として考えていきたい。

墨彩画公募展について

問 ①雪舟顕彰事業として始まった墨彩画公募展も市民の応募がほとんどない。市民に何の効果が生まれているのか。

答 ②現在では、一流画家への登竜門の場と化しており、

この制度は、十分意義があり、教育をコントロールする機関は必要である。今後



墨彩画公募展

血税を投入する必要はないと思うが、今後も開催を続けていくのか。

答 ①雪舟のふるさと総社がPRできたこと、雪舟を再認識してもらえたこと、高水準の作品を見て文化、芸術への関心度が上がったことなど、一定の効果があったと思う。

問 ③市民レベルの規模、やり方に変えて継続し、市民の手で雪舟を顕彰していく展開にはどうか。

は教育委員会の点検、評価の公表も実施したい。(教育委員長)

市で開催する国民文化祭、美術展の時期と重なっており、第8回開催までは今ままで同様の実施したい。

③平成23年度以降の見直しの中で検討したいが、雪舟を核とした文化振興は必要であり、市民を対象とした事業への転換も含めて考えていきたい。(教育長)

《荒木 勝美》 市長の政治姿勢について

問 県下ナンバーワンよりもオンラインワン政治を目指してほしいが、懸案事項、新規事業、復活事業など多くの事業を短期間に実施して現時点でどう評価しているのか。

答 懸案事項として、政治倫理条例の制定による交際費の公開、入札への介入拒否、新総社大橋の建設はこれを置き去りにして市政は前進しないということから苦渋の選択でゴーサインを出したこと、4月から新医療体系をスタートさせ、4月、5月で220人が時間外診療を受診したことなど、少なからず前進を見た。さらに6部体制の機構改革、子育て王国、新農業会議、観光プロジェクト、コミュニティバスの運行などが実行あるものになるようオンラインワンを目指して頑張りたい。復活事業のそう

《吉備路マラソン》 西部地域の整備計画について

問 ①高梁川新架橋整備方針によると、新架橋は経済効果の増大が期待され、産業道路的な意味あいをもつ。ならば、渋滞が回避されない現計画路線以外に、別の産業道路の路線が必要ではないか。

答 ②南秦、上原、富原、八代、久代は下水道が手付かずの状態であるが、将来、特定環境保全公共下水道などで対応できないか。

問 ③西公民館久代分館の移転新築は実施計画で平成23年度の予定であるが、一日でも早く現地調査に入ることができないか。

答 ①橋を渡った先は、倉敷市酒津の新橋に接続する循環路線の構築と、県道上高末総社線のガソリンスタンド付近へ直結する路線が計画されている。その是非を含めて沿道の用途変更による企業誘致など、西部地域の活性化の要因につ

なげたい。直結する交差点付近の渋滞緩和のため、県道への右折ライン新設も考えていきたい。



移転新築される西公民館久代分館

②特定環境保全公共下水道事業の方針は現在変更がなく、今後、富原、上原の全部、久代、秦の一部の整備を予定しており、事業化に向けて慎重に検討したい。(市長)

③阿曾分館建設後、久代分館の移転新築に取り組みたい。平成23年度に建設場所の選定を計画しているが、早めに地元協議等を行うなど準備を進めたい。(教育長)

《服部 剛司》 市長の政治姿勢について

問 ①コミュニティバスの他地域への拡大、路線の改善等の考え方、夜間医療の今後の手だて、子育て王国を目指しながら出生率を向上させる考え方はあるか。

答 ①昭和3路線、阿曾1路線は乗車率56%と高く、さらにダイヤの変更にどう意見を聞きながら現行路線を高めていくし、他地域

うなことを研究するのか。まず農業者を助ける施策を考えてもらいたい。

③多文化共生と銘打ってAMD Aと協定を結ぶのは、飛躍的すぎ。町内会と協定を結んでほしい。



4月から運行を開始したコミュニティバス「総社こまわりくん」

でも要望が出ており、可能な限り要望にこたえていきたい。

4月からスタートした夜間医療体制は完成品ではない。この体制が充実強化され市民から頼りになる存在となるよう、市民の声に応じて柔軟な姿勢で対応していきたい。

出生率は県下4番目で一定の評価はあるが、総社で子どもを出産し育ててみたという若者が増えるよう、

住環境を含めて子育て王国そうじゃの精度を高めていきたい。

②新しい農業者を増やすことを目指して会議を立ち上げた。今まで水稲、花卉、果物等の問題が別々のテーブルで議論されていた。流通等が同じテーブルに着いて産地にアドバイスを与えることは価値がある。これが最終的に農業者が辞めないですむ、生産性が上がる要因になると思う。

③外国人が多いという特徴があり、外国人に優しい市として就学支援、生活支援のため、AMD Aのノウハウを借りて市民と同じように接していける文化をつくりあげていきたい。地域のコミュニティとも協定を結